

森林環境教育（森林ESD）プログラム分析シート

団体名： 公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

プログラム名： 水源地の森ツアー（一般募集）

プログラムの目標	・水を育む源流の森に触れ、森の保全の重要性と村の取り組みを知る ・自分の生活と源流の森とのつながり、森を構成する生命とのつながりを感じる（想像する） ・楽しみながら、森や川に興味を持ち、自分の生活を見直すきっかけとする
プログラムの概要	・水源地の森の散策 ※小学校の校外学習、学校・企業・生涯学習グループ向けツアー、森と水のワークショップ等、内容は異なる部分もあるが、基本的に同じ

プログラムの展開

時間数	プログラムタイトル	
	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
(分)	オリエンテーション	
15	スタッフ・参加者自己紹介、ツアー趣旨説明、	・水源地の森は川上村が購入し、保全しているため入山が制限されていることを伝え、何故森を守らなければならないのか考えるきっかけを与える
60	移動 水源地の森登山口へ移動、川上村の紹介、	・川上村の面積、人口、森林率、吉野林業、大滝ダム、大迫ダム、吉野川分水などをキーワードに木と水と人の共生、水源地の村づくりを意識してもらう
15	散策準備 山の神様参拝、注意事項、準備運動、	・昔から森の恵みをもらって暮らしてきた山村の民俗文化にも触れる ・安全に森を散策したり、学習したりするために、準備したり、危険な行動、生物について予備知識を身につけてもらう
90	人工林散策 人工林について説明、森の役割について説明、自然観察、	・人が木を使ってきたこと、木を使うために育ててきた歴史と、よく手入れされた人工林と、木が売れないために放置されるようになった人工林を比べ、森の役割の大切さを実感してもらう ・動物、植物など様々な生物の観察を通して、生物多様性とその重要性に気づいてもらう
45	昼食	・森の中で自由に過ごしながら森の魅力を感じてもらう ・気温や水温、水の硬度などを調べ、数値から森の役割を想像してもらう
15	人工林と天然林の比較	・人工林と天然林を比較するが、どちらの森も大切だということ、それぞれの森と自分たちがこれからどのように関わっていくべきか考えるきっかけを与える
105	天然林の散策～下山 天然林について説明、森の役割について説明、自然観察、河原の様子比較、	・紀伊半島の成り立ちと、吉野川紀の川源流部に残された豊かな生態系を自然観察とおして感じてもらう ・水源地の森と伐採された森の河原の様子も見比べ、一度自然が失われてしまうと、それにかかわるものが次々と崩れてしまうことと元どおりにならないことを実感してもらう

60	移動				
	質問、川上村のPR、	・過疎化、高齢化がすすむ川上村が取り組むべきこと、川上村のを観光の視点から話し合ってもら			
15	まとめ				
	参加者に感想、自然のためにできることの勧め、	・参加者の感想を聞き、それを川上村や水源地の森のことを知らない人に伝えてもらうように促す ・水源地の森から吉野川紀の川や吉野川分水の水の流れ、または川上村の木材などでつながる自然や環境をみんなで協力して自然を守っていくために、各自でまずできることから取り組むようにまとめる			
森林環境教育の視点	1 感性的経験	感性的な内容－森林の感覚的把握や美的把握、畏敬の念など			
	2 自然的特性	森林の自然的特性に関わる内容－植物や動物の生態など			
	3 多面的機能	森林と人とのかかわりに関する内容－森林の働き、保安林など			
	4 現状・課題	森林の現状に関する内容－森林の荒廃、人手不足など			
	5 管理・維持	森林の管理・維持に関する内容－森林整備、育成、維持、管理など			
	6 歴史・文化	森林とのかかわり方の歴史－その土地での歴史、薪炭林、炭焼き			
項目番号	活動の分析（森林環境教育の視点） 上位3項目				
2	川上村・水源地の森の地理・歴史を知り、動物や植物を見たり、鳴声を聞いたり、触れたり、観察しながら豊かな生態系に触れる。				
3	手つかずの原生林、伐採され再生しつつある天然林、人工林、またそれぞれの河原の様子を見比べ、水源涵養、災害防止、生態系保全など森の働きを知る。				
4	水源地の森から生まれる水は川へ海へと流れ、流域や吉野川分水でつながる人々が水道や田畑、工場で使い、そこで作られた物は全国へと届けられている。しかし、温暖化やシカの食害、後継者不足など、様々な問題を抱えている。				
ESDの要素（生きる力）		能力	1 批判的に考える力	態度	5 他者と協力する態度
			2 未来像を予測して計画をたてる力		6 つながりを尊重する態度
			3 多面的、総合的に考える力		7 進んで参加する態度
			4 コミュニケーションを行う力		
項目番号	活動の分析（能力・態度の視点） 上位3項目と実施後の変化				
3	森で見たもの、聞いたもの、感じたものが自分の暮らしまたは人にとってどんなふうに役立っているのかを考え、水も空気も木も森があるからだ気づききっかけとなった。				
6	森から育まれた水も空気も木も多くの人々が利用しているものなので、自分勝手に使ったりせず、次につながる人のことを思いやれるようになった。				
実施後、参加者の変化	「いつも使う水の生まれる森を大切にしたい」「水を汚さないようにしたい」「森のために間伐材の割り箸を使う」「知人に勧める」など自然への興味と畏敬、森が大切なものであるという認識が生まれた。その経験を、ボランティアガイドや生態系調査に同行したり、他の場所での体験に活かせるようになった。				

学習指導要領との関連（上位３項目）		
教科	項目	学習内容
３・４年 社会	飲料水の確保	自分たちが飲んでいる水のふるさとを訪ね、それが生まれる森について知る。水を汚さないように意識する。
５年 社会	森林資源の働き	森が水や空気や生物を守ったり、自然災害から人を守っていることを実感する。
総合	総合的な学習	水源地の森での自然体験をとおして生きる力を養う。
プログラムでの学校との連携（取組内容）		
森と水の源流館の見学と併せて、より深く森や水のことを知りたい場合は、水源地の森ツアーを行った。		
プログラムでの地域との連携（取組内容）		
地域の住民に聞き取り調査し、自然利用について明らかにしてきた。		
プログラムの今後のめざす方向・展開		
水源地の森や自然環境の保全に取り組める人を育て、水源地の森の豊かな生態系や川上村の水源地の森づくりに共感できる人の輪を広げる。		
現状での課題など		
保全のため受け入れられる人数に限りがある。		
質問事項、知りたい情報など		